

「 幸福 」

幸福とは、何を持っているか、何をすることができるかということではない。
心の中から自然に湧いてくる小さな希望を感じること、そしてその喜びをそばに
いる人と分かち合うことができること。

(いのちの言葉 日野原 重明 より)

温風至(あつかぜいたる) 七十二候で梅雨明け頃に吹く南風のことを白南風(しろはえ)梅雨の間に吹く南風は黒南風(くろはえ)と呼ばれています。どちらも、亜熱帯から吹く暖かく湿った風ですが、梅雨時期の雨雲の黒、梅雨が明け青空に白い巻雲や巻層雲が浮かぶ頃に吹く風を白と、自然事象に名を付け表現しています。言葉の中に、季節を愛でる心情や感性、景色の美しさや自然の偉大さを感じます。

私たちは、当たり前のように毎日を過ごす中では幸せを感じることは少ないように思います。しかし、日々の中にこそ小さな幸せは何気なく隠れています。美しい物を見て心を動かされたり美味しい物を食べることであったり、家族と過ごす時間であったり、また何もせずのんびりと過ごす時間も喜びかもしれません。慌ただしい中でもゆっくりと振り返る時間を持つことや、物事の見方を少し変えることでたくさんの小さな幸せに気付くこともあります。そして、その感情を素直に受け止めることで、心地良い幸福感を味わうことが出来、心の安定が図れ、ささやかな望みに向かって力が湧いてくるのだと思います。

子どもたちは自分で出来たことや嬉しいことがあると、保育者や友だちの顔を見て得意げな表情で拍手をし、気持ちを伝えてくれます。その喜びに共感したり寄り添うことでさらに笑顔と達成感が高まり「自分を認めてもらえた」「これでいいんだ」という自己の肯定と自信へと繋がっていきます。小さな幸せや喜びを感じられるよう、たくさんの経験の中で心を育んでいきたいと思えます。また、保護者の方や同一施設内にある高齢者介護施設とも行事や集いの場で交流を深め、共に喜びを分かち合いたいです。

クレイシュ保育園 園長 小清水 幸子
職員一同

2019年度 年主題

【ことばに満たされて～ひびきあう～】

2019年度 年主題聖句

【その人は流れのほとりに植えられた木。】

詩編 1編 3節

【 7月聖句 】

まことの光が輝いているからです。

ヨハネの手紙I 2章 8節

【 7月主題 】

「 触れてみる 」

0歳

- ・保育者の祈る姿にふれる
- ・水や砂に触れてみる
- ・沐浴や温水遊びをして、気持ちよく過ごす
- ・絵本や歌を楽しむ

1、2歳

- ・神さまに守られている園生活を喜ぶ
- ・絵本や歌を通してことばの豊かさにふれる
- ・保育者の援助をうけながら、自分の思いを伝えようとする
- ・水や砂、土に触れて感触を楽しむ



7月の予定表

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5 プール開き	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15 海の日	16 身体測定	17	18	19 避難訓練	20	21
22	23	24	25 誕生日会	26	27	28
29	30 クレイシュ通信	31				
備考						

【 お願いとお知らせ 】

- ・汗をかいた際はこまめに着替えますので、多めに衣服をお持ちください。
- ・爪が伸びていると怪我に繋がる場合もありますので、こまめに爪切りをお願いいたします。

0歳児 mer(海) 組の子どもたちの姿～



梅雨の合間にも、暑い日が続く夏の訪れを感じられる季節となりました。リトミックでは、ピアノや歌に合わせて元気よく身体を動かしています。「おつかいありさん」の曲では、大地、空組の友だちが蟻になりきっている中で一緒にハイハイして進んだり、アメチョコさんの「コーロコロ」のところでは、嬉しそうに寝転がりコロコロと転がる動作を真似っとして表現してくれます。楽しい雰囲気の中で人とふれ合う心地良さを味わい、音楽を通じて運動機能も向上しています。鈴やマラカスなど音の鳴る玩具も興味を持ち、嬉しそうに振っている姿も見られます。太鼓やタンバリンなど音色の異なるものやリズム遊びなどもさらに取り入れていきたいと思えます。

給食では、様々な食材に慣れながら自分で食べる喜びを知り、大きく口を開き手掴みで食べ進めています。マグにも自ら手を伸ばし、両手でつかみ麦茶を飲むことも少しずつできるようになりました。発達に応じた援助をしながら、子どもたちの「やりたい」という気持ちを大事にし、「できた」という喜びや多くの達成感を感じられるような保育に努めていきたいと考えています。

これから夏本番になりますが、快適に過ごせるよう環境を整え健康観察を行っていききたいと思います。



1歳児 terre(大地)組の子どもたちの姿～

汗ばむ日が続く、夏の訪れを感じます。

みんなで植えた風船カズラやカリブラコア、マリーゴールドなど色とりどりに咲く花々を見ることを楽しみにし、花壇を指さして「行こう」と保育者の手を引っ張っています。花によって花びらの大きさが異なっていることに気付き、「大きいね」「小さいね」と言ってみたり、葉に直接触れてみることで「ざらざら」や「つるつる」など感触の違いを感じたのか、違う種類の花を何度も比べるように触れている様子が見られました。また、初めは小さく黄緑色だった実は何かわからず首をかしげていましたが、日に日に赤く大きく成長していくとトマトとわかったようで「赤」「トマト」と声に出しながら手を伸ばし触れていました。その日の給食にトマトが出ると「あ！」と気づいたようで、一番目に口に運ぶ姿が見られました。食材を見て分からないものは「これ何？」と聞くことも多くなり食に興味を持ち始めました。『やさいさん』や『くだものさん』などの絵本を見ながら少しずつ名前を覚えています。

野菜に親しみや愛着を持つことで食べる意欲が生まれ、苦手なものでも食べてみようという気持ちを持つようになりました。食事のマナーを守りつつ、楽しく食事できるように工夫していきたいです。

2歳児 ciel(空) 組の子どもたちの姿～

夏野菜が陽の光を浴びて、ぐんぐん成長し子どもたちは目を輝かせています。まだ本格的な夏到来とはいきませんが、梅雨の合間に草花に水をあげたり、ブラックベリーやトマトに触れたり自然に親しみ過ごしています。

色水遊びでは、育てている花や普段目にしている植物を集め、指ですりつぶしてみたり、袋に花を入れ「ギュッギュッ」と強く揉みながら少しずつ水が色付く様子に心躍らせ「黄色でた～」や水の感触に「冷たい」と自分の感じた気持ちや嬉しさを言葉で表現する様子も見られます。色を作りだす楽しさや、絵の具とはまた違う自然の優しい色合いに触れるなどの経験を通し、驚きや発見を大切にしています。また、作りだした色水をカップに移し「どうぞ」とまごごと遊びをしたり、色水を指や手に付け紙に描いてみたりと遊びは次から次へと子どもたちの発想で展開していきます。創造力や自発性が生まれ、色彩感覚や感受性が養えるよう、また子どもたちの豊かなひらめきを活かすことが出来るよう気持ちに寄りそう保育を行いながら、さらに体験を重ねることで満足感や達成感が味わうことが出来るようにしていきたいと思えます。

今月からプール遊びも始まりますが、この時期ならではの遊びを通して様々な体験を行っていききたいと思います。

